

## バイオマス利活用施設の概要

作成日：平成 19 年 8 月

作成者：(株)エックス都市研究所

	<b>【施設名称】</b> 株式会社協同商事「本庄開発センター」
	<b>【事業主体】</b> 株式会社協同商事
	<b>【所在地】</b> 埼玉県本庄市
	<b>【運転開始年】</b> 平成 14 年
原材料および利用量	生ごみ（発生量：約0.5t/日）
生産物（種類）	バイオガス（生産量：60 m <sup>3</sup> /日）・固形物（肥料）（生産量：30kg/日）
利用方法	本施設の熱源となる蒸気を作るボイラーに使用。 大学の農学部で実験材料に使用。
導入目的・経緯	これまで廃液処理は沈殿工程や活性汚泥法などの排水処理技術を用いて無害化するのが一般的であり、処理に多大な時間・施設面積・費用が必要であったが、今回、主に無害化設備を独自に企画開発した。
設備仕様	生ゴミ破袋分離機、生ゴミ可溶化槽、脱気槽加熱槽、メタン発酵槽、希釈水分離槽、余剰ガス燃焼装置、発酵残液処理装置、ガスホルダー 施設処理能力：約500kg/日
稼働状況	365日 24時間/日
経済性関連データ	施設整備費：89,280千円 補助事業名：創造技術研究開発事業 交付主体：国
導入効果	廃棄物処理と技術開発、エネルギー取得を両立させることが出来、相乗効果をもたらしている。
運営上の課題	従来技術では微生物による分解が困難なセルロース、リグニン系有機性廃棄物を、高度前処理より高効率、高速度なメタン発酵システムを早稲田大学との協同研究により技術開発していく。
備考・参考資料	関東農政局 都県別バイオマスの取組事例